

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

JRRN が設立されてから今月で丸二年を迎えることができました。11月前半には中国・北京において「ARRN 主催 第5回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」及び「第3回 ARRN 運営会議」を開催しました。

この度のニュースレターでは、活動報告として前記の「ARRN 主催 第5回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」及び「第3回 ARRN 運営会議」の報告の他、JRRN 支援による首都圏の施設見学に関する

寄稿記事をお送りいたします。

JRRN は、日本で蓄積された様々な技術・情報や素晴らしい取り組みをアジアに向けて積極的に発信するとともに、アジアでの交流成果を日本国内の河川環境改善に関する全ての方々に還元し、様々な活動のサポート役を担えればと考えています。

引き続き、JRRN 会員皆様からの積極的なご支援とご協力をお願い申し上げます。

活動報告(1)

「ARRN 主催 第5回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」開催報告(中国・北京)

2008年11月4日(火)、中国・北京の清華大学において、ARRN 主催「第5回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」を開催しました。

過去4回の国際フォーラムはいずれも東京にて開催しましたが、本年の「第5回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」は、11月3日から5日まで北京市で開催された「第4回アジア・太平洋水文水資源協会(APHW)国際会議」の特別分科会(special session)において開催することで、中国北京での開

催となりました。初の国外の開催と言うこともあり、質疑応答では中国の河川環境に関わる研究者の方々より積極的な質問がなされ、大変盛況に会を実施することができました。

講演者は日本、中国、韓国よりそれぞれ1名、3名、1名が出席し、それぞれの国内の自然再生に関する最新の研究テーマ、動向等を紹介し、最後にARRN 会長である玉井信行教授(金沢学院大学)により当フォーラムの総括がなされました。

多くの方々に参加していただき、APHW 国際会議への参加者及び中国国内の水・河川関係者を中心に、河川環境分野の情報と意見交換を行うことができました。



写真 1 開会の様子



写真 2 会場



写真 3 国際フォーラムの様子

なお、開催報告、プログラムについて JRRN ウェブサイトにて掲載しております。また、講演者の許可を得た講演時のパワーポイントデータも併せて公開しております。

URL : <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/985.html>

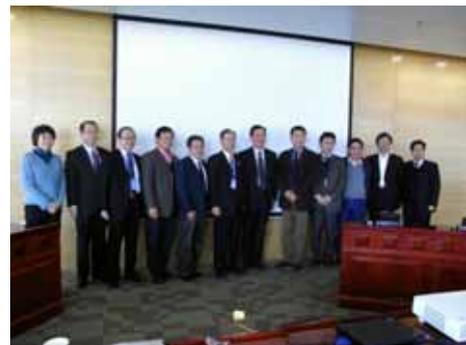


写真 4 講演者および主要スタッフ

プログラム

8:45-10:15

- 開会挨拶 Wang Xiaogang (中国水利水電科学研究院 副院長)
 講演 Chang Wan Kim (韓国建設技術研究院 上席研究員)
 河川環境改善に向けた生物・非生物的要因の関係分析 ~ 韓国京畿(キョンギド)地方の事例
 講演 戸田祐嗣(名古屋大学 准教授)
 河川・流域再生における自然共生型環境管理技術開発について ~ 伊勢湾流域圏での取り組み
 休憩

10:15-10:30

10:30-11:50

- 講演 Dong Zheren (中国水利水電科学研究院 教授)
 河川再生の理論と実践
 講演 Wang Zhaoyin (中国清華大学水理科学・技術研究所 教授)
 中国における河川再生に向けた川の機能向上の取り組み
 講演 Chang Jianbo (中国科学院水資源省 水利研究所 教授)
 三峡プロジェクト運営管理における生態系が必要とする条件

11:50-12:00

- 総括 玉井信行 (ARRN 会長、金沢学院大学大学院特任教授、東京大学名誉教授)

司会進行 玉井信行 (ARRN 会長)

(JRRN 事務局 伊藤将文)

活動報告(2)

「第3回 ARRN 運営会議」開催報告(中国・北京)

2008年11月4日(火)「第5回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」と日を同じくして、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の「第3回運営会議」が、中国・北京市のCRRN:中国河川・流域再生ネットワーク事務局(水利水電科学研究院)にて開催されました。

会議の冒頭では、ARRN会長の任期満了(2年)に伴う次期会長の任命が行われ、前期に引き続き、玉井信行教授(金沢学院大学教授・東大名誉教授・IAHR会長)にお引き受け頂くことがJRRN(日本)、CRRN(中国)及びKRRN(韓国)で合意されました。

続いて、これまでの1年間の活動報告の後、審議と意見交換として、ARRN組織体制の話題、次年度の活動方針、特に来年の国際フォーラム開催地や河川再生ガイドライン構築の進め方などを中心に審議と意見交換が行われました。

会議の概要はJRRNウェブサイトに掲載しております。「第5回水辺・流域再生に関する国際フォーラム」の報告と併せてご確認下さい。

URL: <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/986.html>



写真5 運営会議の様子



写真6 会議参加者での集合写真

【第3回 ARRN 運営会議 参加者】

ARRN 会長:

玉井信行(金沢学院大学大学院特任教授、東京大学名誉教授)

CRRN(中国河川・流域再生ネットワーク):

Dr. Dongya Sun(中国水利水電科学研究院 IWHR), Wengen Liao(IWHR),
Dr. Kewang Tang(IWHR),

KRRN(韓国河川・流域再生ネットワーク):

Dr. Chang Wan Kim(建設技術研究院 KICT), Dr. Hong Koo Yeo(KICT)

JRRN(日本河川・流域再生ネットワーク):

佐合純造(リバーフロント整備センターRFC), 伊藤一正(RFC)

オブザーバー:

Dr. Xiaogang Wang(IWHR), Dr. Zheren Dong(IWHR), Dr. Peng Jing(IWHR)

ARRN事務局(JRRN事務局):

伊藤将文, 和田彰, 丹内道哉, 檜山浩孝, 横井宏行

(JRRN事務局 伊藤将文)

寄稿記事(1)

首都圏周辺の水環境と治水に関する施設を見学しました

寄稿者： 鍋木孝治 (JRRN 会員)

11月の25日と26日の2日間に渡り、台湾の環境保護署（日本の環境省に相当）から訪日された2名の技術者の方々を、首都圏外郭放水路、古ヶ崎浄化施設、東京都落合水再生センターへと現地見学案内しました。その時の様子を報告させていただきます。

最初の見学地は首都圏外郭放水路でした。待ち合わせ場所の龍Q館（庄和排水機場に隣接）に10時半に集合。時々、地球防衛軍総司令部に変身する（？テレビのロケに使われるそうです）という中央制御室とガラス越しの部屋で、事業の目的、建設経過、使用状況の説明を受けました。事業概要も非常にわかりやすく教えて頂きましたが、実際の洪水時でも、一般見学者は入れるとのことで、是非とも洪水時に巡り会いたいものです。説明を受けてから、龍Q館の横にある調圧水槽部まで入り中を見学しました。底部は地上から約20メートル下にあるそうです。多くの方がパルテノン神殿と呼ぶという壮観な柱列群は、この深度の大きな揚水圧に抵抗する錘の役割をしているとのことで、深さと規模を再認識しました。



写真7 中央制御室の横での概要説明受講



写真8 ポンプ室横の調圧水槽

午後2時半に常磐線松戸駅から程近い、古ヶ崎浄化施設に再集合。ここは生活排水の流入で汚染の進行した江戸川の支川の坂川の水を曝気付礫間礫間接触酸化法によりBODを中心に水質を浄化する施設です。施設の横には地下に入り、処理時間毎の浄化水が見られるコーナーがあり、専門家でない人にも効果がわかりやすく展示されています。浄化後の水は、ふれあい松戸川と名づけられた水路を通り排出されますが、ここでは自然の水草も生育しており、また、オオヨシキリの鳴き声も聞かれるとのことです。夏にはこの流れを利用してカヌー教室も開催されるとのことで、都心に近いながら貴重な環境を創出し利用している好事例と言えます。



写真9 古ヶ崎浄化施設
(全体に覆土してあり、それとはわからない)



写真 10 古ヶ崎浄化施設からの浄化水を利用した
ふれあい松戸川

翌日は新宿一帯の下水を処理している落合水再生センターを見学しました。この再生センターの特徴は全量を高度処理（砂ろ過）を実施しており、新宿副都心等のトイレ洗浄水として1日4千立方メートル、渋谷川・古川、目黒川、呑川の水源地として1日8万6千立方メートルが利用されています。場内の見学は処理の流れに沿って見られるとのことでしたが、時間の関係から、砂ろ過、膜処理（1日50立方メートル）、膜処理水の使用例のみ見学しました。



写真 11 落合水再生センター
(上部の公園化は東京都で最初だった)



写真 12 砂ろ過設備



写真 13 隣接のせせらぎの里公苑
(膜処理した水が流されている)

最後になりますが、今回の現地見学におきましては、首都圏外郭放水路と古ヶ崎浄化施設の2ヵ所では国土交通省関東整備局江戸川河川事務所、また落合水再生センターでは東京都下水道局の関係者の方々にお世話になりました。また、今回の見学は、(財)リバーフロント整備センター、JRRN事務局の皆様方の支援で実施することができました。未筆ながら、以上の皆様方に厚く御礼申し上げます。

寄稿記事(2)

第6回「川の自然再生」セミナー の開催報告

寄稿者：丹内道哉（財団法人リバーフロント整備センター・JRRN事務局）

1. はじめに

第6回「川の自然再生」セミナーが財団法人リバーフロント整備センター主催のもと10月2日（木）に東京都港区の発明会館にて開催され、多くの方々に参加して頂きました。

本セミナーでは、これまで5回にわたり全国各地の自然再生に関する情報提供などを行ってきました。

今回の第6回セミナーは『中小河川の自然再生』をテーマに開催したものです。なお、平成20年3月に国土交通省河川局より“中小河川に関する河道計画の技術基準”が通達されております。



写真 14 会場内の様子

2. プログラム

講演1 中小河川における自然再生について

九州大学大学院 教授 島谷幸宏氏

講演2 多自然川づくりの最新の動向

国土交通省河川環境課 課長補佐 吉田邦伸氏

講演3 安室川の自然再生

～ チスジノリがよみがえる河川環境の再生 ～

兵庫県県土整備部土木局 主査 松尾富貴氏

講演4 野川の自然再生

～ 生き物と人のふれあいの場の整備 ～

東京都北多摩南部建設事務所 課長 上田謙次氏

講演5 河川生態系から自然再生を考える

大阪府立大学大学院 教授 谷田一三氏

3. アンケート結果報告

セミナーの講演内容については、本センター発行の多自然研究12月号へ掲載したもので、ここでは紹介を割愛しますが、JRRN活動にとって有益な情報提供がありました。

セミナーへの参加した方を対象に、JRRN活動に関する以下のアンケート調査を実施しました。代表的な回答について、ご紹介します。

Q) JRRNにて、取り上げてほしい情報や事例があれば参考にお聞かせ願います。その他、出版や企画なども含めまして、ご意見があればお聞かせください。

(代表的な回答)

- ・ 自然再生の事例集の出版
- ・ 瀬・淵の形成、保全、再生 魚の越冬、越夏環境づくりの情報
- ・ 国内では失われた環境の原風景をアジア諸国に発見する残存自然の機能や特性、これを国内で再生するにあたっての場の情報
- ・ 海外事例と国内事例の差、治水上の特性の差、国民意識の差に関する情報
- ・ 地球温暖化、サブプライム、政治などと河川環境の関係の情報
- ・ 地球温暖化に伴う大洪水の発生など日本にも関係する事例
- ・ 環境省レベルでの紹介に比べて河川・溪流・湖沼・湿原レベルでの情報が少ないように思われる

今後の活動を考える上で、とても参考になる意見を多数頂きました。事務局としてこれらの意見を活かし、河川再生に関する情報循環に貢献する活動を行っていきます。

会議・イベント等 (2008年12月)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

JRRN 主催「第2回 JRRN 河川環境ミニ講座『韓国安養川等の都市河川再生』」

日時：2008年12月10日(水) 15:30~17:30

会場：財団法人リバーフロント整備センター会議室

主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

申込方法等：<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/996.html>

(その他の河川再生に関する主なイベント)

メコン川流域の環境保全・開発と国際支援に関する
国際シンポジウム

日時：2008年12月4日(木)、5日(金) 9:30~

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/992.html>

河川環境管理財団大阪研究所 研究発表会

日時：2008年12月4日(木)

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1006.html>

第17回自然共生河川研究会~河川環境に配慮した
河道計画について

日時：2008年12月4日(木) 13:00-17:30

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/963.html>

平成20年度 土木研究所講演会 ~韓国の河川
再生技術の傾向と課題 他

日時：2008年12月9日(火) 10:00~17:00

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/994.html>

自然共生研究センター10周年記念研究報告会

日時：2008年12月18日(木)、19日(金)

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/1004.html>

冊子・ビデオ等の紹介

都市と河川 世界の「川からの都市再生」(2008.11
発刊)

- ・ 著者：伊藤一正 (ARRN/JRRN 事務局)
- ・ 編さん：吉川勝秀 (JRRN 会員)
- ・ 出版社：技報堂出版
- ・ 発行年月：2008年11月
- ・ 価格：3,045円(税込)
- ・ ISBN：978-4765517416



本書では、世界における川からの都市再生の先進事例を視覚的に紹介しながら、これからの日本での水辺を軸とした都市再生のあり方について述べられています。都市計画、まちづくりに関する行政・学識者・学生・実務者向けの一冊です。

川の環境目標を考える - 川の健康診断 (2008.7 発刊)

- ・ 監修：中村太士・辻本哲郎・天野邦彦
- ・ 出版社：技報堂出版
- ・ 発行年月：2008年7月
- ・ 価格：2,940円(税込)
- ・ ISBN：978-4-7655-3431-4



本書は、河川環境について、人の健康診断の類推表現を用いながら、その目標を具体的に提示し、今後の河川の保全・再生のあり方について判りやすく解説しています。

事務局からのお知らせ

JRRN が設立されて 3 年目に突入しました。JRRN の活動にご関心のある方、また国内外の河川再生の情報に興味をお持ちの方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

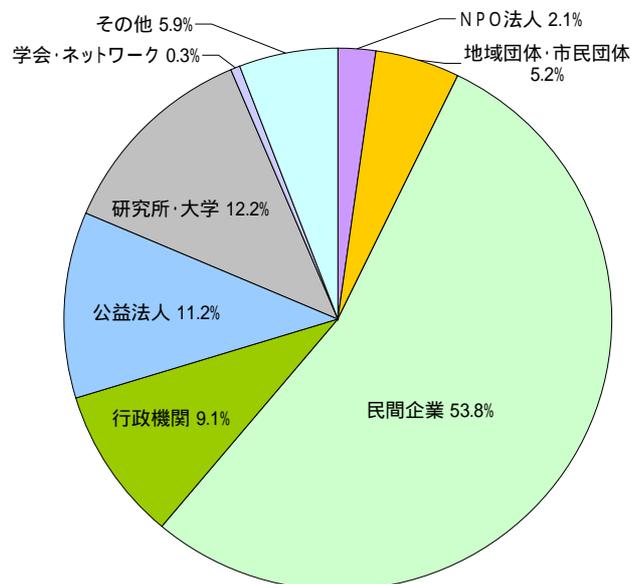
JRRN の登録資格

JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 11 月 28 日時点の個人会員構成

【問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局
財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル
Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

会員登録方法

以下のホームページより個人・団体会員登録が可能です。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>